

1 1. 霊の結ぶ実は義

1. 「神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であっ・・・た。」（ルカ 19:14、口語訳）

1.1. 日本聖書協会訳では、口語訳も新共同訳も「～とされた」と訳しているが、新改訳では「～と認められた」と訳しています。それは、義認であって、義化ではない・と言いたいのかもかもしれません。

1.2. 英語聖書では、義認の意味を分かり易くしたものがああります。「この人 / 罪人は、神のまえに義とされた」（新国際訳、新リヴィング訳）。英語の「義とされた」（justified）は、この取税人が、神によって、正しい人（義人）また、罪なし、とされたことを表しています。

2. 「わたしはあなたがたに言う。この人が、義と認められた。・・・」（ギリシア語の聖書）主イエスが、すっかり明らかにしました。この人には、罪がありません。神のまえに義人とされました。これは、主イエスによる無罪宣言です。

3. 『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』（新改訳）『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』（口語訳）ここでの「（私を）憐れむ / （罪を）赦す」（ヒラスコマイ）は、その基本的な意味が（ 和解される ）です。（「ら」は、L音。）

義認と和解は、同じこと。：[新改訳] ローマ 5:9 ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。5:10 もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。

4. 私たちは、キリストの十字架で表された、神の憐れみ深い愛に信頼することによって、救われています。なぜならば、神の怒りを招く私たちの罪がキリストの十字架のゆえに解決しているからです。私たちは「やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださいるイエ

スが天から来られるのを待ち望んでいます。」（1テサ 1:10、新改訳）私たちは「主イエス・キリストにあって救いを得るように定められています。」（1テサ 5:9、新改訳）

5. パウロから40余年後、ヨハネがキリストについて、私たちの罪のための『あがなう・いけにえ』である、と言っています。「この方こそ、わたしたちの罪、いや、わたしたちの罪ばかりでなく、全世界の罪を償ういけにえ（ヒラスモス）です。」（1ヨハ 2:2）

ヨハネがはっきりと確信をもって言っています。神ご自身が、ご自身の愛のなかに高価な贈り物を備えました。それは私たちの罪を取り払って、神の怒りをおわしたのです。「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえ（ヒラスモス）として、御子をお遣わしになりました。」（1ヨハ 4:10、新共同訳）

6. ルカ 18:13 の「和解の愛」（ヒラスコマイ）は、新約聖書では、もう一箇所あります。「そこで、イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって、民の罪をあがなう（ヒラスコマイ）ために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった。」（ヘブル 2:17、口語訳）

天の父なる神と天使たちの前での、イエスの、和解の執り成しの働きは、罪人が神の恵みを受けることができる根拠を、キリストのいけにえの死に置きます。キリストの、和解の執り成しの働きは、信仰によって、救い主や主としてキリストを受け入れた罪人を、神が義とみとめることが正しいことをあらわしています。

（深遠に橋をかける、2008年第3期の副読本）

7. 大祭司キリストは、天の至聖所で、ただ一度、ご自身の血によって、永遠の・あがないをしておられます。（日本語訳はどれでも『至聖所』と正しく翻訳してありませんので、注意が必要です。）

「かれはご自身の血をもって、ただ一度、至聖所に入って、永遠のあがないを手にいれた。」「天にある・もの・それ自体が、より良い・いけにえ・で清められねばならない。」「今、私たちのために、神の御前に現れてくださった。」（英語聖書、新欽定訳）